

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝運営理念を唱和し、意識づけををしている。運営理念に基づきながら、入居者様の個々のニーズに合わせるよう努めている。	法人理念、信条については毎朝朝礼にて唱和し共有に努めている。職員は理念をよく理解し支援に取り組んでいる。新人職員に対しては入社時の2日間の研修の中で、理念、信条についての教育を行い理解に繋げている。家族に対してはケア信条に基づいた「あきらめないで何でもやって頂く」というケアについてのホームの思いをお話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、地域の行事に参加したり、日々の生活の中で入居者様も地域の一員であることを意識しながら地域との交流を行なっている。	自治会費を納め地域の一員として参加できる行事については参加し交流を深めている。地区総会にはホーム長が出席し、一斉清掃には職員が参加している。地域活動として、秋の交通安全運動、小学校の「あいさつ運動」、中学の「認知症サポーター養成講座」、また、ホームの秋祭には近隣住宅に利用者がチラシで告知し多くの皆様が来訪し、ゲームやヨーヨー釣りなどで交流の時を楽しんでいる。更に「音楽」、「歌」、「お菓子作り」、「ちぎり絵」等の、職員の知人も含めたボランティアの来訪が定期的にあり利用者も楽しまれている。また、近所の子供達がぶらっと立ち寄り利用者で「将棋」等を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内のグループホーム連絡会に加入し地域の方々に役立てる内容を検討して貢献活動に繋がっている。 近隣小学校への挨拶運動や交通安全運動、認知症サポーター養成講座の開催を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に一度開催し参加者からの意見や要望を取り入れ、その結果を次回の会議に報告しサービスの向上に努めている。	利用者、家族代表、区長、民生委員、あんしん相談員、市高齢者活動支援課職員、地域包括支援センター職員、交番駐在員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催している。活動報告、利用者状況報告、質問、意見交換等を行い、頂いた意見は支援に活かしている。会議はユニットのホールで行い、会議の様子は職員も肌で受け止めサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場を活用しながら、担当者へ事業所の実情や情報共有を行っている。	地域包括支援センターとは様々な連携を取り行事等も一緒に開催している。あんしん(介護)相談員の来訪が月1回あり、利用者と親しく交わりホームのイベントにも参加いただいている。民生委員からの依頼の認知症講座開催の啓蒙活動も引き続き実施している。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し行っている。また、豊野地区グループホーム連絡協議会が月1回開かれ、情報交換に合わせ地域活動について話し合い支援に繋げている。	

愛の家グループホーム豊野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に代わる介護方法を模索し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームの方針として拘束のないケアに取り組んでいる。外出傾向の強い方がいるが散歩をしたり、買い物に出掛けたり、家事の分担表により役割を務めていただき対応している。玄関は開錠されており利用者毎に目視で30分～1時間毎に所在確認を行い、チェック表に記入し所在確認に努めると共に交番との連携も取っている。転倒防止のため家族と相談しセンサーマット使用の利用者がいる。毎月、身体拘束の研修会を行い意識を高め取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の資料を職員全員に配布し、事業所内で研修を行い虐待防止に努めている。虐待廃止に向けた強化週間などを設け毎朝読み上げて意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修など通して活用できるように意識をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご理解が得られるよう契約書に沿って説明をし、同意を得た上で押印をいただいている。改定時には再度契約の巻き直しを行ったり、覚書を作成し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している他、フリーダイヤルでの相談窓口を設置している。また、会社として年に1度ご家族に満足度アンケートを実施し、ご要望が反映されるよう改善目標の設定を行いそれを掲示している。	意思疎通の難しい利用者が3名居られるが家族の意見もお聞きして継続して出来る事には続けて取り組む様支援している。家族の来訪は週1回、月1回、年数回という状況であるが来訪の際には普段の様子を細かくお伝えしている。家族会は年1回6月に行い、1年間のホームの活動報告等を行っている。誕生日会はユニット毎に、3時のお茶の時間を使い利用者全員からお祝いコメントを頂きお祝いしている。また、各利用者の様子は居室担当より日頃の様子を手紙に写真を添えお知らせし家族から喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議、スタッフ個別面談を通じて意見や提案を取り入れている。	月1回開かれる全体会議では内部研修、行事連絡、各係からの連絡等を行い、ユニット会議では利用者個々のケアについて、業務の不安要素について等を話し合いケアの向上に繋げている。人事考課制度があり会社ベースでは階層別評価による評価を行い、ホームでは3ヶ月に1回個人目標による自己評価を行い、ホーム長とリーダーによる個人面談を行ってスキルアップに繋げると共に困ったことを一人で抱え込まないよう話をする機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜間休憩取得時間の把握を始め、勤務状況や労働時間の把握に努め、実績に反映している。スタッフの表彰制度などがあり、やりがいに繋がる環境を整えている。努力や実績を公平に評価し正社員の登用や資格支援制度等キャリアパス制度を設けている。		

愛の家グループホーム豊野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為に資格取得支援制度や、資格取得後に社内で活かせる環境づくりに努めている。社内研修の取り組みのほか、社外研修を受ける機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に加入し、勉強会や同業他社との情報を共有を行う事を推奨している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況の把握の努めている。また、ご本人様が不安に感じていることや困っていることについてホーム内で共有し支援方法を考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のこれまでの介護生活を伺い、ご家族様のニーズに応えるためにホームとしてどのような支援が出来るかを話しあっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極める為にも、担当のケアマネとの連携を図りながら、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側という意識を持たずに、日々の生活の中で、お互いが協働しながら生活を送っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態変化の連絡の他、新たな発見や達成できたことなどをお便りだけでなく電話でも報告し、ご家族様と入居者様のより良い関係が作れるようにしている。また、ご家族にしか出来ない支援に関しては都度協力を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅へ行ったり、馴染みの友人が訪れたりなど関係が途切れないよう努めている。	友人、知人の来訪がありお茶をお出しし、寛いでいただいている。ホームの電話で家族と連絡を取られる利用者も数名おり、携帯電話使用の方もいる。年末には利用者手作りの年賀状を家族に発信し喜ばれている。また、希望の物やホームの畑で使用する肥料や種等を買って出掛けている。更に、2週間に1回移動図書館の巡回があり、好みの「書物」を借りるのを楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	気の合う入居者様同士で過ごせるように努めて いる。役割や活動などお互いが気持ちよく行なえ るようにスタッフが間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もこれまでの生活が損なわれないよ うに生活環境や支援内容などを情報提供し、柔 軟に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の係わりの中で把握できるように努め、意 思疎通が困難な方にはご家族様から情報を得る ようにしている。	利用者本人の日々の会話、様子から希望を引き出し 意向に沿った支援に結びつけている。意思疎通の難 しい利用者については様々な提案を行い、選択して いitくようにしている。出来ることをやって頂くとい う取り組みの中で、掲示板に示された利用者個々の役 割分担である掃除、洗濯物たたみ等に参加して頂い ている。ミシンを使っての「手ぬぐい帽子」、「マグネッ ト」、「ヘアゴム」、「シュシュ」等の素晴らしい作品制 作に取り組み生き生きとした日々を送っている利用 者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご本人様、ご家族様に話を聞き、生活歴や馴染 みの暮らしを把握できるように努めている。 ご家族様に直接記入して頂くシートも活用してい る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	生活リズムを理解すると共に、表情や言動から 心身の状態把握に努めている。出来る事に着目 しスタッフ間での情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	日々の係わりの中で、思いや意見を聞き反映し ている。アセスメントを含めスタッフ間で意見交換 やカンファレンスを行なっている。	職員は1～2名の利用者を担当し、家族とのやり取 り、お便り、買い物、衣替え等を行い、利用者のこと を誰よりも知るように取り組んでいる。計画作成担当 者より担当職員に「サービス計画実施状況の総括及 び評価表」が事前に配布され、評価後、担当者会議 に於いてモニタリングを行い、家族の希望もお聞きし プランを作成し、基本的に3ヶ月に1回の見直しを行 い、変化が見られれば、随時、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、個別ファイルを活用し水分量、食事、 バイタルなど状況を記入し確認できるように努め ている。状態変化やご本人様の言葉、エピソード を記録しスタッフ間の情報共有に努めている。		

愛の家グループホーム豊野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族の状況に応じて通院や認定更新手続きなど必要な支援を柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括、近隣住民、自治会からの情報を元に、サロンや入居者様にとって楽しめるようなボランティアの方の受け入れを行い、支援体制を整えるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様や、ご家族様が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院はご家族の希望に応じて対応している。スタッフが付き添いで行く場合には、ご家族様に受診前、受診後の報告を行っている。	現在、全利用者がホーム協力医の月1回の往診で対応している。また、協力医関連の訪問看護ステーションの看護師の来訪が週1回あり利用者の健康管理に合わせ協力医との連携を取り万全な医療体制を取っている。歯科については必要に応じ往診と受診で対応し、月2～3回協力歯科の歯科衛生士の来訪があり口腔ケアと職員の指導を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との契約に基づき、健康管理、医療面での相談や指示を頂いている。また、主治医との連携を図りながら対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人様の情報提供を行い、ご家族様と密に連絡を取りながら入院中の状態把握、実際に病院に赴いての状況把握、退院前のカンファレンスの実施に努め、退院後の支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応にかかる指針をご説明し同意をいただいている。また、その時の事業所での対応力を見極めることを意識している。	法人として「重度化した場合の対応にかかる指針」があり利用契約時に説明し同意を頂いている。その状況に到った時には家族、医師、看護師、ホーム関係者で話し合いの場を持ち、家族の希望を確認し、看取り支援に取り組んでいる。昨年、家族もホームに泊まり込み、気持ちを一つにし、1名の利用者を看取り、最期のお見送りを行った。その際、家族から感謝の言葉も頂いた。看取り後、看護師を交え反省会を開き、経験を次回に活かせるよう職員間で話し合いを行い意思統一をした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時及び、急変対応のマニュアルを作成している。また、避難訓練時に消防署の方から指導を頂いている。AEDの導入に伴い使用方法を定期的に学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日防火用自主点検を行い、防火意識を高め、防火用自主点検シートに記録している。消防署にもご協力を頂き年2回(日中・夜間想定)の避難訓練を行なっている。	年2回春と秋に防災訓練を実施している。うち、1回は消防署と消防団参加の下実施している。水消火器を使つての消火訓練、通報訓練、緊急連絡網の確認も行っている。夜間想定での避難訓練を合わせて行い、1階の利用者は外へ避難し、2階の利用者は階段を使いゆっくり移動して訓練を行い、時間も計り、確認している。備蓄についてはパンの缶詰め、レトルト食品、水などを用意し、また、ガスコンロや石油ストーブも準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの気持ちを大切に、プライバシーの確保と個人情報の取り扱いには十分に配慮している。ご家族には個人情報使用同意書を頂いています。入居者様への声掛けは常に選択ができるような声掛けを心掛けている。	言葉遣いには特に気配りをし、人生の先輩として尊敬の想いを込め声掛けをするよう、職員同士互いに注意し合い支援に取り組んでいる。入浴時には脱衣所が洗濯室に隣接しているためカーテンで見えないよう気配りしている。入室の際はノックと声掛けを必ず行いプライバシーに配慮している。呼び方は苗字を「さん」付けでお呼びしている。年1回、プライバシー保護と権利擁護の研修会を行い意識を高め実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望や好きな事が日常的に出来るように働きかけている。自己決定が困難な方には、表情を読み取ったり、行動パターンを理解したり、ご家族様にお聞きしたりして思いの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常にご入居者様のペースや体調に合わせてながら選択肢があるように支援している。好みの把握やその時どう過ごしたいか確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援している。理美容院へは入居者様の希望の場所へ行けるように支援している。また、地域的美容師がホームへ来て理髪できる体制をとっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に畑で栽培した野菜をメニューに入れるようにしている。時には、ホットプレートを活用し皆様の目の前で調理し、召し上がっていただいている。ご希望のある入居者様とは一緒に調理している。献立の掲示はもちろん食事メニューの説明なども加え、美味しく召し上がっていただけるようにしている。	ほとんどの利用者が自力で食事が出来る状況で、職員と一堂に会し会話をしながらの楽しいひと時を過ごしている。献立は法人の管理栄養士が立てたものを選任スタッフが調理し提供している。利用者のお手伝いについては3日に1回の食材の買い物から下準備、調理、片付けまで力量に合わせ、自分の役割として積極的に参加していただいている。合わせて、ホームの畑での野菜栽培や漬物作り、お菓子作りも楽しみながら行っている。更に、少人数に分かれ職員と「うどん」、「スイーツ」、「鰻」、「回転ずし」等の外食にも出掛け楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量を確認し、栄養バランス、水分量が取れるように支援している。食事制限がある方には物足りなさを感じないように、低カロリー食材を使い量を増やすなど工夫して提供している。		

愛の家グループホーム豊野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状態に合わせて、声掛け、支援を行っている。口腔内に異常があったときには連携先の歯科医に往診していただけるような体制を確保している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながら身体機能に応じたトイレで排泄ができるように支援している。必要以上の排泄用品の使用が無いが常に話し合い、状況に合わせて対応している。	自立の方が半数、一部介助の方が三分の一、残りの方が全介助という状況である。昨年より取り組んでいる、1日1,500cc以上の水分摂取による自立支援の取り組みにより排泄パターンの把握が明確になり的確な誘導、介助が行えており、下剤を使わない排泄にも繋がりが、パット等の費用削減にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保。軽運動や散歩など個々に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様に確認し希望の曜日や時間に入って頂いている。また、入浴の楽しみのひとつとして、お好きな入浴剤を選んで頂いている。意思疎通が困難な入居者様に対しては、生活リズムに配慮したうえで、入浴時間を決めている。	見守りで自立の方が数名、一部介助の方が半数強、全介助の方が若干名という状況である。基本的には週2回入浴を行い、希望により回数を増やしたり、時間も午前、午後と、希望に合わせ、また、畑作業の後や家族との外出前には入浴を行うようにしている。更に、季節に合わせて「ゆず湯」、「菖蒲湯」等のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。寝付けないうきにはお茶などを飲みながら会話をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人のファイルに綴りスタッフが把握できるようにしている。服薬前には名前、日付を声に出して確認し、確実に服用して頂けたかの確認をしている。薬のセットミス防止の為、薬のセット者を固定している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの力を発揮できるように、お願いできそうな仕事を行っていただき感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	習慣や楽しみに合わせ、買い物、外食、季節行事に外出している。ご本人様にしか分からない場所などには、ご家族様にもご協力して頂きながら外出支援させて頂いている。	外出時、自力歩行の方が三分の二、歩行器使用と車イス使用の方が若干名ずつとなっている。天気の良い日には日常的にホームの近隣を15分～30分位散歩し、外の雰囲気を楽しみながら多い時には1時間位歩く時もあるという。また、駐車場やベランダでお茶を飲みながら外気浴も楽しんでいる。更に、春のお花見から秋の紅葉狩りまで季節に合わせた外出を楽しみ、少人数に分かれ外食に出掛けたり、地域の商店街に井戸端会議を兼ね買い物にも出掛けている。	

愛の家グループホーム豊野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、ご本人様が安心できるのであれば小額でも所持金を持って頂けるよう家族と相談し所持していただき、いつでも使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自由に使用して頂けるようにしている。ハガキや手紙なども書く事が出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の飾り付けを一緒に考えさせて頂き、自分が住む家だという意識を高めて頂いている。また、入居者様の作品などを展示することにより、達成感を感じて頂けるようにしている。	ホーム玄関前と裏庭の2ヶ所に畑があり綺麗に整備、準備がされ、野菜の収穫を楽しんでいることが想像できる。玄関を入ると利用者の手による季節の飾りと笑顔あふれる職員紹介が掲示されている。また、利用者の憩いの場であるリビングは日々の利用者の様子を写した写真が数多く掲示され日頃の活動の様子が見て取れる。合わせて、切り絵、ぬり絵等の作品や行事に合わせ製作された作品の飾りつけが施され、季節感と温かさが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファの配置に配慮し落ち着けるスペースづくりを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には新しい物ではなく、ご本人様が長年使ってきた馴染みのある物を持って来て頂き、今までの生活に近い環境で生活して頂けるようにしている。	居室入り口にはフルネームで大きく表札が掲げられ、自分の部屋としてプライバシーが確保された中、自由な生活を送っている。持ち込みは自由で、使い慣れた家具、いす、テーブル、テレビ等が持ち込まれている。中には自宅の部屋の調度品をそのまま居室に移動し、趣味の物から生活用品まで好きな物に囲まれ思い思いの日々を送っている利用者もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどに張り紙をして、場所が分かりやすいように目印を付けている。また、手すりやスロープを取り付け、安全に自立した生活が送れるようにしている。		